

# 原発連事務局短信 第1131号 2021年10月27日

原発問題全道連絡会 事務局発行 Tel011-777-1060 e-mail genpaturen@gmail.com

## 寿都町長選 越前谷由樹候補が大健闘!! 文献調査撤回を掲げ、片岡現町長を追いつめる

26日、寿都町長選と町議補選が実施。

人口約2800人の町。有権者2448人、投票者数2058人、投票率84.07%（前回01年86.86%を2.79 下がる）、無効23票。

### 選挙結果

町長候補	町議補選候補(被選挙数1)		
越前谷由樹 70 無新 900票(有効投票数44%)	吉野卓寿 31 無新 1121票		
片岡 春雄 72 無現 1135票	南嶋 豊 74 無新 884票		

国策である「核のごみ」最終処分場選定文献調査をめぐる賛否が最大の争点となった町長選・町議補選で、国とNUMOと一体となって昨年8月に町民無視・独断で調査を強引に推し進めてきた5期20年の現町長に対し、わずか1年余で経験ゼロから反対に立ち上がった市民2団体（子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会、脱・肌感覚リコールの会）と越前谷由樹前町議を軸に広範な町民、町出身者、周辺自治体住民の皆さんと道内外支援者が力を合わせて惜敗とはなったが、投票した半数近くの町民が文献調査ノーの反対票を投じ、片岡現町長や国、NUMOにNOを突きつけ追い込んだ。

片岡陣営は核のごみ問題の争点化をおそれ、核のごみ問題は「争点ではない」とし、交付金による経済再生を前面に打ち出し誤魔化しの争点反らしに終始。「バックに○○がいる」など国政選挙並みのなりふり構わぬ反攻攻撃。にもかかわらず「想像以上の苦戦」（片岡陣営幹部・道新より）、片岡氏も当選の挨拶で「核のごみの案件は厳しいと改めて感じた」（朝日新聞より）と言わざるを得なかった。道新の出口調査では片岡氏に投票した有権者でも4分の1は「調査は文献調査まで」と答えており、調査進展を望む民意は少数派だと報じた。越前谷氏も「町民は900票という大きな票を与えてくれた」と強調。

同時に実施された町議補選も町長選同様、越前谷陣営と片岡陣営の一騎打ちになり、文献調査撤回を訴えた吉野卓寿氏（越前谷後援会会长の息子さん）が片岡氏と並ぶ票で当選。200余人の町民が必ずしも片岡氏に白紙委任したわけではない流動的で複雑な動きが見て取れる。（結果、町議会は定数9で賛成派5人、反対派4人）

今後、さらに町民や町出身者、周辺自治体住民、道内外の皆さんと運動を進め、反対票を受け止め文献調査撤回の要請、住民投票運動（「町住民投票条例」は投票が過半数に達しなければ成立したとは認めないと問題あり）、道知事による核のごみを「受け入れ難い」とした2000年道条例の遵守を求めるなど検討していくことに。



この日、投開票の立ち合いに越前谷由樹後援会事務所に道原発連として堀一代表委員が参加。後援会事務所には若者や支持者の町民の皆さんのが大勢駆けつけていた。開票前に「すつTV」が選挙戦の模様を放送。越前谷候補者一人には自分たちの未来を守る為に若者たちが一緒になって必死に駆けずり回っている姿に感動、寿都の希望を感じた。結果を受けて吉野卓寿後援会会长と越前谷由樹氏が挨拶。越前谷氏とがっちりと握手し選挙期間中の奮闘に感謝を伝え、今後の活動の激励と期待を伝えました。